子どもたちに笑顔を 新生児医療応援シンポジウム

開会宣言を行う村田修一選手

2008年12月20日（土），「頑張れ！NICU企画」として新生児医療応援シンポジウムが横浜市港南区民文化センターにて開催された．「子どもたちに笑顔を」をテーマとするこの市民公開シンポジウムは横浜ベイスターズの村田修一選手や神奈川県立こども医療センターのスタッフらが中心となって企画された．村田選手からは「頑張れ！NICU企画」に参加することになった経緯が，新生児科医からはNICUの現状や未来について語られた．

（取材／大谷）

新生児集中治療室と新生児科医

「新生児集中治療室（NICU）と新生児科医について」をテーマに関　和男先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター）が講演を行った．赤ちゃんの特徴として，①小さい，②体温調節が上手にできず，肺，心臓，腎臓，免疫などさまざまな機能が未熟である，③胎内でたばこ，アルコール，薬など母親の摂取物の影響を受けやすい，④日々成長し，小さく生まれてもキャッチアップすることができる，⑤母子の関係を作り上げる大切な時期を過ごしていることを挙げ，周産期医療は母子ともに支える医療であると話した．そして，呼吸がうまくできない，早産で生まれた，予定日近くで出生したが状態が悪い，心臓病など先天性の病気を持っている赤ちゃんなどがNICUに入院しているが，治療を必要とする赤ちゃんの救命率は向上しており，日本は世界で一番高いことを解説した．

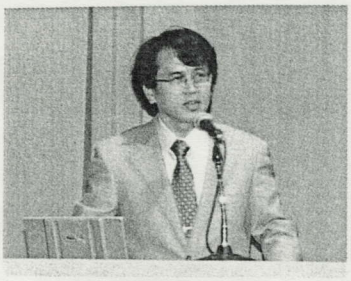
また関先生は，同センターにおける取り組みとして，常在菌をつけるため，赤ちゃんの口の中に母乳を塗布したり，家族中心のケアや面会制限の緩和，カンガルーケアなどを行っていることを紹介した．残念ながら亡くなってしまった赤ちゃんにはグリーフケアを行い，写真を撮るなど思い出を残すようにしているという．

新生児科医とは何かについても触れた．新生児科医は1,000人弱で，そのうち専門医は80人弱である．新生児科医はNICU児だけでなく，正期産児の診察も行っていることも紹介した．

神奈川県の新生児救急搬送の実際

川滝元良先生（神奈川県立こども医療センター）の講演「神奈川県の新生児救急搬送の実際」では，まずシンポジウム当日の朝の神奈川県のNICUの受け入れ状況がモニターで示された．そこには「心臓の手術が行える」などの欄が○×で表示されており，当日の状況では搬送を受け入れることができる病院は少なかった．NICUのベッドがなぜ足りないのかというと，出生数は減っているが出生体重2,500g未満，さらには1,500g未満の赤ちゃんが増えているからだと川滝先生は言う．また，中核病院・協力病院の不足，後方病床の不足，小児科医（新生

関 和男先生



川滝元良先生

豊島勝昭先生

児科医）の不足も原因であるという．24週（出生体重600g）で生まれた赤ちゃんは3～4ヵ月，28週（出生体重1,000g）で生まれた赤ちゃんは2～3ヵ月，32週（出生体重1,500g）で生まれた赤ちゃんは1～2ヵ月と，子宮内で過ごすはずであった期間と同じくらい入院することとなる．神奈川県の2006年の出生数は約79,000人で，体重別の出生数をみるとNICUの必要ベッド数は計算上842床必要であった．

この病床不足には神奈川県の周産期ネットワークを用いて対応している．重症のときには往診に出向いて治療し，軽症のときは三角搬送を行うようにしている．三角搬送は年々増加しており，37週以上の児が多いという．搬送先は協力病院が多いが，基幹病院に搬送することもある．搬送時間は出発から帰院まで3時間未満が一番多く，搬送人員はドクター1人か研修医を加えたドクター2人である．またバックトランスファーを積極的に取り入れている．つまりNICUのベッド不足には，後方病床の活用：院内他病棟の協力，県内のNICUの協力，家族の理解・協力が必要であると話す．また，同センターには，福島・秋田・長崎など全国からドクターが研修に来ている．川滝先生は彼らに多くの症例を経験してもらい，将来地方のNICUに戻った際に十分に働けるだけの技術力を身につけてもらうよう育成するとともに，彼らの力が同センターのNICUを支えていると講演をまとめた．

神奈川県のNICUの現場で感じていること／未来への取り組み

豊島勝昭先生（神奈川県立こども医療センター）は「神奈川県のNICUの現場で感じていることと未来への取り組み」をテーマに講演を行った．赤ちゃんの120人に1人がNICUに入院している今，無事に生まれてくることは当然のことではない．どんなに願っても救えない生命もあると豊島先生は話す．赤ちゃんの誕生には朝も夜も関係ないため，NICUでは昼夜を問わないチーム医療が要求される．NICUに入院する赤ちゃんは高度な医療機器と医療技術があってはじめて救命することができる．早産で生まれた赤ちゃんで問題となるのは未熟性であるため，成熟のために長期間の集中治療と入院とが必要になってくる．NICUの病床は慢性的に不足しており，保育器や酸素，人工呼吸器など一通りの機器をそろえると約2,000万円かかるという．金銭面だけでなく，保育器を置くスペースや配線などのハード面でも問題が生じるため，簡単に増床することはできないそうだ．

次に豊島先生は村田選手の息子，閏哉（じゅんや）くんの誕生について紹介した．村田選手の妻・絵美さんは23週で破水し，通院していた病院の医療者に「今，生まれると助からない可能性が高い．助かっても重い障害が残るかもしれない．1日でも長くお腹で育てるしかありません」と言われた．村田夫妻は「自然に任せて生まれてくることができるかどうか見守ろう」と決めたそうだ．

閏哉くんは在胎24週に712gで出生した．絵美さんは悲しみのあまり泣きながらの出産となった．村田選手は子どもを見た瞬間に「この子を守ろうと思っ

●トークショー：村田修一選手ご夫妻●

司会者：有名人であることで大変ではなかったですか？

村田選手：とにかく息子の無事の退院だけを願っていました．

豊島先生：有名人であることを知っているけれども秘密にしていたドクターや，村田さんのことを知らないナースもいました．村田さんは有名人ぶらず，コットの下にこそっとサインを置いてくれたりしていましたね．

村田選手：息子が小さく生まれたことで父親としての器が大きくなりました．NICUにあきがなく，静岡県の病院まで行くしかなかったのですが，神奈川県立こども医療センターに受け入れてもらえて感謝しています．

豊島先生：受け入れについてはいつも何とかしたいと思っています．村田さんの場合も一度はお断りしたけれども2時間後に受け入れることができました．

村田選手：息子が生まれるときはちょうどキャンプ中の予定でした．1月27日に妻が入院しましたが，1月31日には沖縄に出発しなければなりませんでした．そして2月7日に息子が生まれました．キャンプ中は本当は外出してはいけないのですが，妻や息子のことが心配で休日にはとんぼ帰りしていました．

司会者：2008年の7月20日にNICU卒業児を野球観戦に招待されたそうですね．

村田選手：野球を観たくても観に来ることができない子どももいると思います．お世話になったことを何かしらの形で返していきたかったのです．現役時代は続けていきたいと思っています．
試合はジャイアンツ戦でした．ヒットもなく，6試合連続ホームランもならず，でした．プレッシャーもあり，NICU卒業生が観ていると思ったらガチガチに緊張してしまいました．

絵美夫人：ヒットを打たないとお酒はなしって決まりがあるんです．

村田選手：これはモチベーションを保つためにはよいことだと思います．現在3歳の息子もお茶で乾杯してくれます．でもユニフォームを着た人はみんなパパだと思っているかも……．

絵美夫人：夫はその日ヒットやホームランを打った，打てなかったなどによって気分も違ってくるだろうし，いろいろなプレッシャーがあると思います．そういうところも含めて今後もフォローしていきたいですね．

村田選手：今後，息子には時間がかかっても何事も自分でやれるように，やりたいと思えるように育ってほしいです．3歳だけど，まだオムツはとれていません．来年からは幼稚園に行きます．感謝の気持ちを忘れない子どもになってほしいですね．

た」という．閏哉くんは生後6日目に消化管穿孔に陥り，転院が必要となった．そのとき，神奈川県内のNICUは満床のため静岡県の病院に行くしかなかったが，閏哉くんの容態では静岡県まで無事にたどりつけるかわからなかった．そこで同センターに依頼があった．ちょうどそのとき，双子のお産が直前に迫っていた．運よく双子の1人の状態が良く，人工呼吸器が不要であったため，閏哉くんの搬送を受け入れることができた．そのとき閏哉くんは出血性ショックの状態にあり，脳にダメージを来す可能性があった．村田夫妻は「助かる確率は低くてもできる限りの治療を」と望み，豊島先生らは「あきらめずに手術を目指し，お子さんの身になって一緒に考えていきましょう」と話した．救命できるかどうかわからなかったのでキャンプ中の村田選手には「後悔したくないなら来てください」と伝えたという．閏哉くんの出血は

3日間続いたが，止まり始めた頃に，手術することができた．手術後も不安定な状態が続き，73日間の人工呼吸管理を必要とした．保育器の横で絵美さんは閏哉くんを励まし続け，村田選手は「野球がすべてだと思って生きてきたが，NICUで頑張るわが子に比べたら野球の勝ち負けなどたいしたことではないと感じた」と話したという．そして2006年8月に退院となった．その後，村田選手は新生児医療の普及啓発活動などを始めた．子どもの経過も気持ちも家族によって異なる．限られた一生であっても精一杯生きる時間を大切に過ごしてもらえるように見守りたいと豊島先生は語った．

早産児は年々増加しているが，NICUの医療によって新生児死亡を減少させることができる．NICUは昼夜問わずのマンパワーが必須で，NICUスタッフは常に多忙である．また，神奈川県は慢性的なNICUベッド不足で，2006年度は46％が収容先を決定するまで120分以上かかっていた．搬送を断らず，1人でも多くの児をNICUに収容するためには新生児科医の育成が急務である．そこで，豊島先生は2008年5月に知事が同センターを視察に訪れた際にNICUの現状を直訴した．安心して妊娠・出産できる神奈川県を目指して，新生児医療崩壊の阻止を目的とした短期有給研修医制度の創設を提案し，2008年8月に21の議員政策提案のうち知事審査を通過した4政策の1つに採択された．これは神奈川県が，都市部と地方の連携による研修医制度のモデル県となり，2年間で8名以上の研修医を受け入れて育成し，未来の新生児医療の人材や技術を全国に発信しようというものである．限りあるNICU病床をどう運用するか，多くの人と一緒に考えていきたいと豊島先生は言う．「子どもの未来を守るのは医療者だけではない．子どもの未来のために少しずつ力を貸していただきたい．このシンポジウムをスタートとして，この企画を続けていきたい」とまとめた．

閉会の挨拶を行う村田選手

●村田選手へのインタビュー●

妊婦の受け入れ問題は他人事ではありません．閏哉は強運を持っていると思います．生まれるとき，手術するとき，障害が残ると言われたときなど，決断を迫られました．そのたび先生が出してくれた選択肢を考えながら決断してきました．閏哉が生まれてから，野球もいろいろな方向からみることができるようになりました．閏哉は4ヵ月早く生まれ，そのころは野球どころではありませんでしたが，閏哉も将来野球をやってくれたらうれしいです．医療者でもいいですね．これからも村田修一のライフワークとして，このような活動をしていきたいです．また今後，新生児医療を支援するNPO法人を立ち上げたいという構想も持っています．今季からシーズン中の本塁打で挙げた打点に応じて神奈川県立こども医療センターに寄付するチャリティー活動を継続していきます．

●村田選手からネオネイタルケアの読者へ●

医療者のみなさんはとても頑張っていると思います．感謝の気持ちを持ちながら野球を続けていきたいです．これからも子どもたちに勇気を与えられるようなプレーをしていきます．